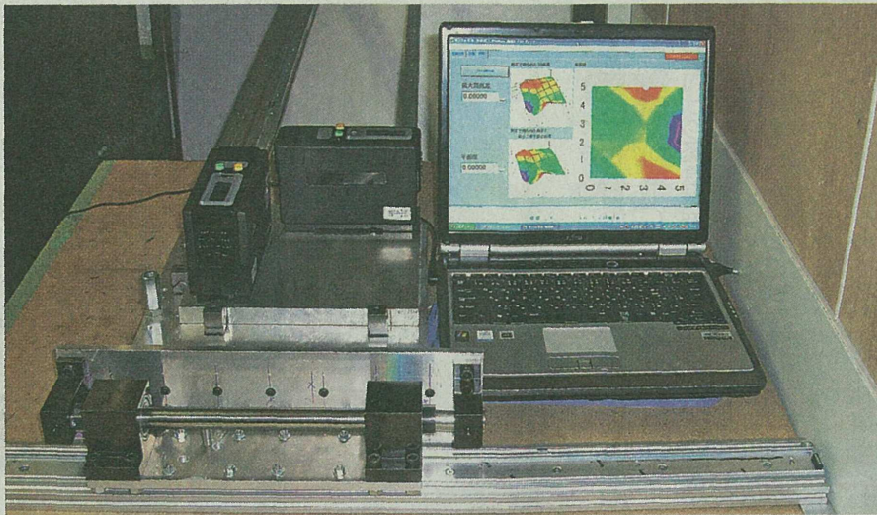


平面度を短時間測定



富山検査が県立大と共同開発した
高精度タイプの平面度測定装置

富山検査 県立大と装置開発

富山検査（富山市上野新町、吉岡裕一社長）は、測定に要する時間を、従来の半分に短縮した平面度測定装置を県立大と共同開発した。水準器を二台使い、縦方向と横方向の傾斜を同時に測定する方法を用いた。計器の土台として使われる定盤の定期検査などでの利用が見込まれ、来年三月の発売を目指す。

従来の平面度測定装置は水準器一台を縦方向と横方向に一定ピッチで動かしながら傾斜を測り、全体の凸凹を算出していた。測定対象が大きくなるほど水準器を動かす回数が増え、測定に時間がかかることが問題だった。

同社は平成十六年四月、短時間で測定できる装置の開発を目指し、県立大工学部の野村俊教授、神谷和秀准教授との共同研究をスタート。縦と横方向の傾斜を同時に測ることとで、水準器を動かす回数を従来の四―五割に減らすこと

に成功。二方向を同時に測定する方法で特許を申請した。装置は千分の一ミリの傾斜を測ることができ、高精度のタイプと、一ミリの精度の二種類を設ける。高精度タイプは定盤を使う精密部品の加工会社など向けに百五十万円程度で販売。一ミリのタイプは台車に載せて動かす地面測定用とし、土木・建築分野で利用を見込む。価格は約五十万円。両装置を使った測定サービスも含め初年度は四百五十万円、三年後までに年間二千万円の売り上げを目指す。